

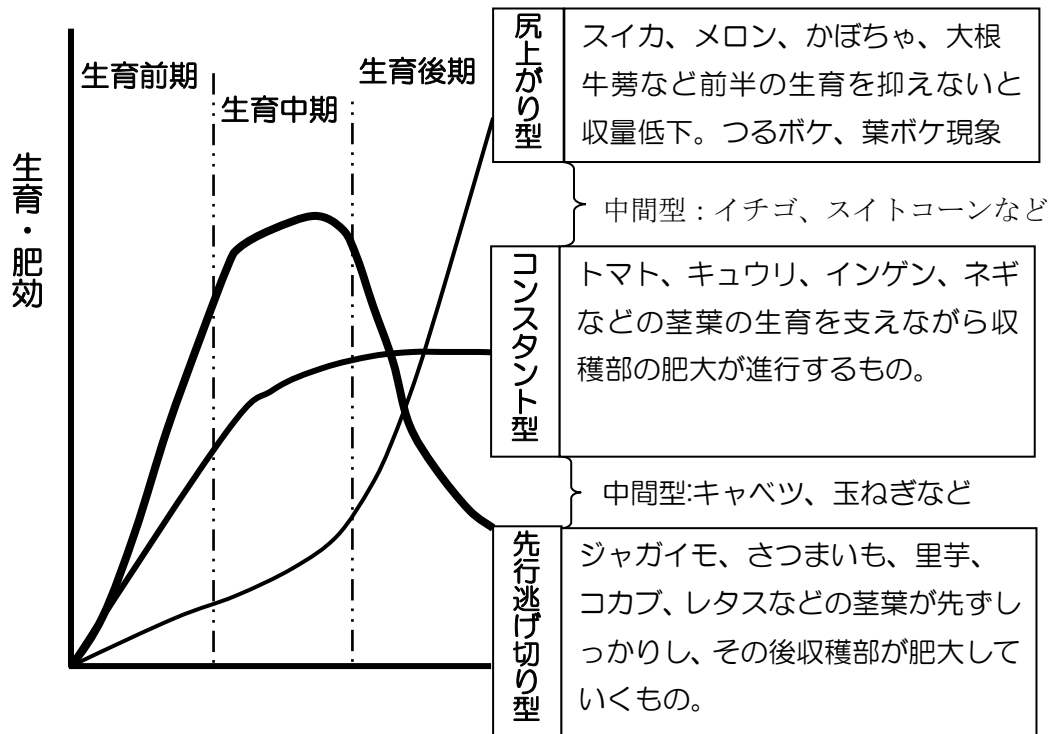
1.施肥パターンについて

作物には、養分を必要とするタイミングがあります。大きく分けて「尻上がり型」、「コンスタント型」、「先行逃切り型」の3通りとさらに、それぞれの型の中に中間型があります。この特性に合せた施肥管理を行なうことが、効率の良い施肥法と言えます。

例えば、「尻上がり型」作物に最初から過剰な窒素を与えた場合、茎葉部の繁茂が生じ、本来、根の収穫が目的にも拘らず茎葉部の生育が優先することになります。

1項の作物観察のポイントの写真事例を参照してください。

施肥においては、下記の施肥パターンを留意することを提案します。



施肥のポイント

施肥パターン	施肥のポイント
尻上がり型	元肥を少なくする。追肥（もち肥）で尻上がりに効かず
コンスタント型	安定した肥効が重要。追肥は、こまめに施す。
先行逃切り型	元肥が主体。後半に窒素の肥効が生じないようにする。